

＼日々の業務に役立つ情報が盛りだくさん！／

ライフリズムナビ 活用セミナー

3/19 木
14:00-14:40

導入後に現場で使っていただく工夫をご紹介
施設内“なじませ”のコツ紹介セミナー

本日のプログラム

ライフリズムナビを導入したものの、「現場職員にうまく伝わらない」「担当者以外が使ってくれない」そんなお悩みをよく伺います。
本セミナーでは、ライフリズムナビを“施設内でなじませる”ため具体的な工夫や事例をご紹介します。



目次

1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか（目的）」を説明できる
2. ライフリズムナビの担当者に介護職員がいない
3. 利用頻度に偏りがなく、複数のスタッフが日常的に使っている
4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している
5. 「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できている
6. 質疑応答



スタッフ全員が
「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できますか？



1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できる

ICT委員はシステムについて理解しているがその他のスタッフへ浸透していない

成果がでない



ICT委員

なんのためにシステムを入れたか分からない



スタッフ

- ・目的が明確になっていない
- ・ICT委員の中でしか情報共有をしていない

1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できる

導入目的、目標設定を明確にしましょう



目的と目標って何が違うの？

目的

最終的に達成したいゴール

||

方向性/理由

目標

目的を達成するための
具体的なステップや指標

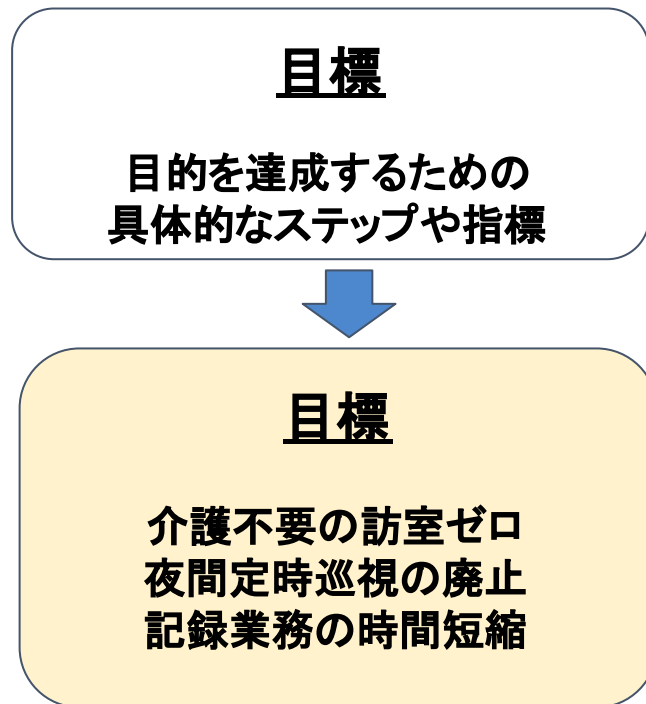
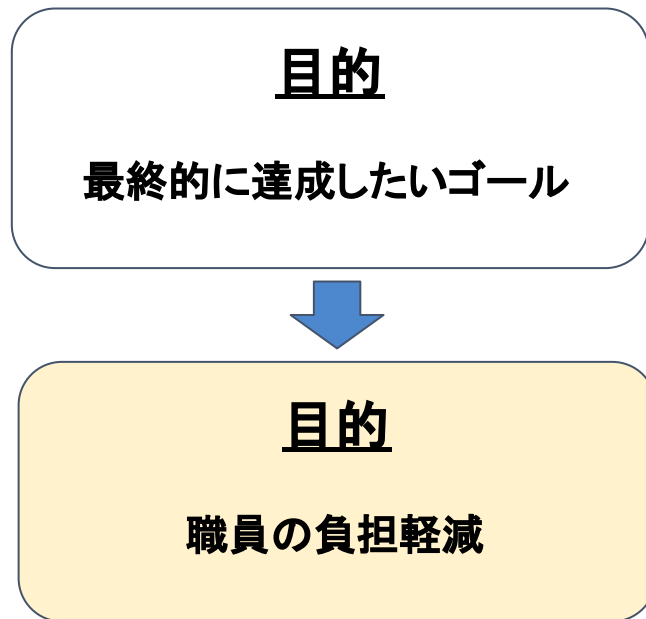
||

手段

1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できる

導入目的、目標設定を明確にしましょう

(例)



1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できる

導入目的、目標設定を明確にしましょう

目的

法人本部で決められ、
機器の導入に至っていることが多い。

施設長やご本部の方に確認してみましょう！



1. スタッフ全員が「ライフリズムナビが何のためにあるか(目的)」を説明できる

最初は慣れないパソコン操作に負担を感じる職員もいます。

しかし「業務効率化」「ケアの質向上」「事故防止」といった導入の目的を理解していれば、「なぜ取り組むのか」が納得でき、前向きに活用しやすくなります。
また、現場の気づきがライフリズムナビの活用に自然につながります。

導入目的や目標を全職員が把握することで「単なる道具」から「ケアと業務を進化させる仕組み」に変わります！



ライフリズムナビの担当者は介護職員の方ですか？



2. ライフリズムナビの担当者に介護職員がいない

「パソコンを普段から使っているから」と事務の方をライフリズムナビの担当者に選定されるご施設があります。



各ご施設の運用ルールはあると思いますが…
事務の方だけではなく、現場の介護職員も選定しましょう。

なぜ現場の介護職員も選定した方が良いのか

①現場目線での運用ができる

・ベッドセンサーのアラートやデータは、実際に介護を行う職員が使ってこそ活かされます。

➡「どの設定が負担を減らせるのか」「どのアラートが実用的か」など、現場で使って初めて分かる課題を反映できます。



2. ライフリズムナビの担当者に介護職員がいない

②スタッフの納得感・巻き込みやすさ

- ・同じ介護職の仲間がリーダーなら「机上的話」ではなく「自分たちのケアの質や負担軽減に関わる取り組み」と捉えやすく、現場の協力を得やすくなります。
- ・事務職主体だと現場のスタッフが「システムのために現場が動かされている」と感じられることもあります。



2. ライフリズムナビの担当者に介護職員がいない

③即時対応力がある

- ・アラートが鳴った際の実際の動きや、導入後の運用改善は現場で判断することが多くなります。
- ➡介護職がリーダーであれば、その場で試行錯誤しながら改善できます。

④ケアへの応用に直結する

- ・センサーから得られるデータ(起床・離床・睡眠リズムなど)を「ケアプラン」「事故防止」「生活リズムの把握」にどう使うかを考えられるのは現場職員。
- ・事務職では「機械を動かす」「報告書に載せる」で留まりやすくなります。

2. ライフリズムナビの担当者に介護職員がいない



ライフリズムナビの担当者を1人だけにせず、各フロアやユニットに「サブリーダー」を置くことも重要です。

さらに、**多職種**を巻き込むこともポイントです。介護スタッフだけでなく、ケアマネジャー・看護職・リハビリ職なども一緒に参加することで、システムの活用が現場の実態に即したものとなり、より定着しやすくなります。

施設の規模や体制に合わせて組織を構築し、定期的な会議を通じてライフリズムナビの運用を進めていきましょう。

利用頻度に偏りがなく、複数のスタッフが日常的に使っていますか？



3. 利用頻度に偏りがなく、複数のスタッフが日常的に使っている

夜間しか使っていない

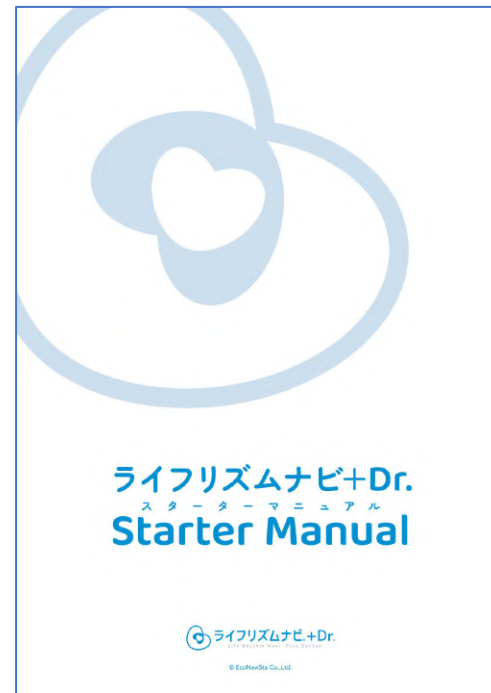


日中はアラートで訪室することはあっても、画面を見ることはほとんどない

このようなお声をよくいただきます。

3. 利用頻度に偏りがなく、複数のスタッフが日常的に使っている

ご施設でもっと活用できる場面がないか振り返ってみましょう！



3. 利用頻度に偏りがなく、複数のスタッフが日常的に使っている

ライフリズムナビのある日常
ライフリズムナビのある1日
介護職員編

日勤

- 8:00 出勤**
PC、スマホチェック
・ログインIDは？
・パスワードは？
・アラート音は鳴るかな？
- 9:00 朝礼・申し送り**
「直近24時間」でいつもの睡眠リズムと変化があるかチェック！
- 11:30 昼食介助**
個室にいる方をライフリズムナビでチェック！
- 13:00 モニターチェック**
日中に寝すぎの人はいないか？
最近室でいることが多き方いますか？
- 14:00 レクリエーション**
気になる方の活動を記録するためにイベントを登録！
- 16:00 ケアカンファレンス
事故防止委員会**
過去データで生活リズムを把握。
生活リズムを基にケア内容を検討！
- 17:00 退勤**
退勤前にスマホを充電！

夜勤

- 16:30 出勤・申し送り**
「直近24時間」でデータチェック
・日中に寝すぎの人はいるかな？
- 19:00 モニターチェック**
寝るの早い人は寝るのタイミングどうだろう...
- 21:00 モニター巡視**
- 22:00 モニター巡視・定時のケア**
- 6:00 起床介助**
モニター確認しながら入居者の起床介助
ベッド上で活動が購入しているからそろそろ声をかけよう...

ライフリズムナビのある日常
ライフリズムナビのある1日
医療職編

看護師

- 8:30 出勤**
PC、スマホチェック
・ログインIDは？
・パスワードは？
・アラート音は鳴るかな？
- 9:00 朝礼・申し送り**
「直近24時間」でいつもの睡眠リズムと変化があるかチェック！
- 10:00 バイタル測定**
70 70 18
ライフリズムナビを見ながら心拍数、呼吸数をチェック！
- 13:00 医師の往診**
医師追加になった方の睡眠状況をチェック！
医師に共有！
- 14:00 情報共有**
往診で追加になった薬を1行メモに記入、情報共有！
- 15:00 処置**
ベッドで臥床しているカスマホで確認。「処置しようとしたけど居室にいなかった...」等の異状な居室が確認！
- 17:30 退勤**
詳細データでバイタル値を確認。気になる方の数値の傾向に変化がないことを確認して退勤！

機能訓練員

- 8:30 出勤**
PC、スマホチェック
睡眠状況をチェック！
- 9:30 リハビリ室へ誘導**
901 入居者501世
26℃ 61% 70% 18% 35.9℃ 12078歩 99%
スマホでリアルタイム表示を見ながら誘導。「居室に居なかった...」を告げる！
- 10:00 リハビリ開始**
「さん、よく動けるように活動量を増やさない...」
- 16:00 計画書の作成**
家族への説明の際にエビデンスとして活用
睡眠データ 計画を立案 家族の理解もスムーズに！
家族からの問い合わせの際に、「眠れていると思います！」と言い切れるようになる

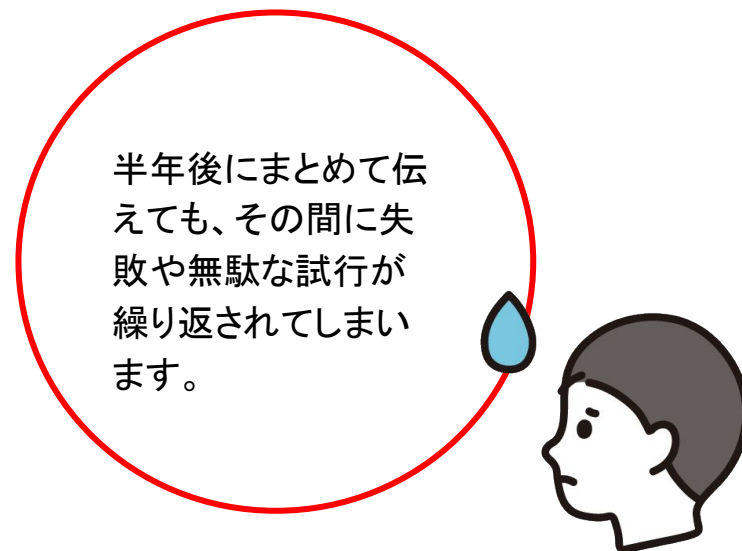
夜間の巡視だけではなく、日中は多職種でデータを活かしご入居者の生活リズムをチームで支援できます。

定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有していますか？



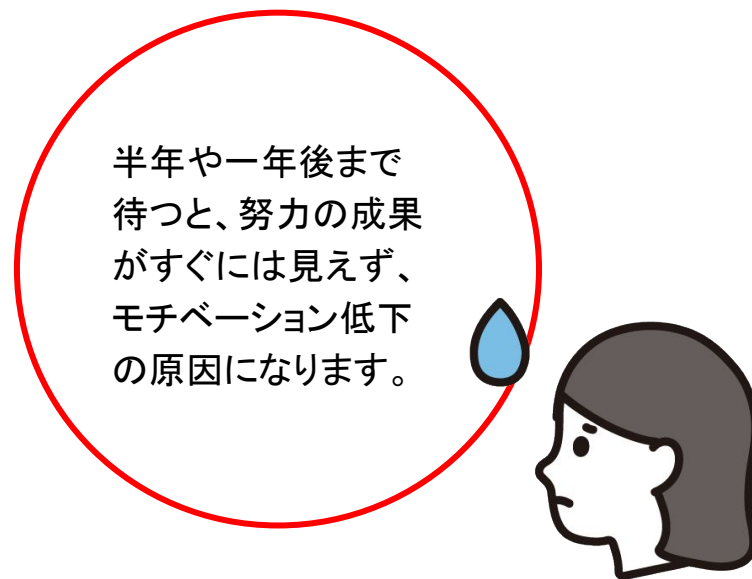
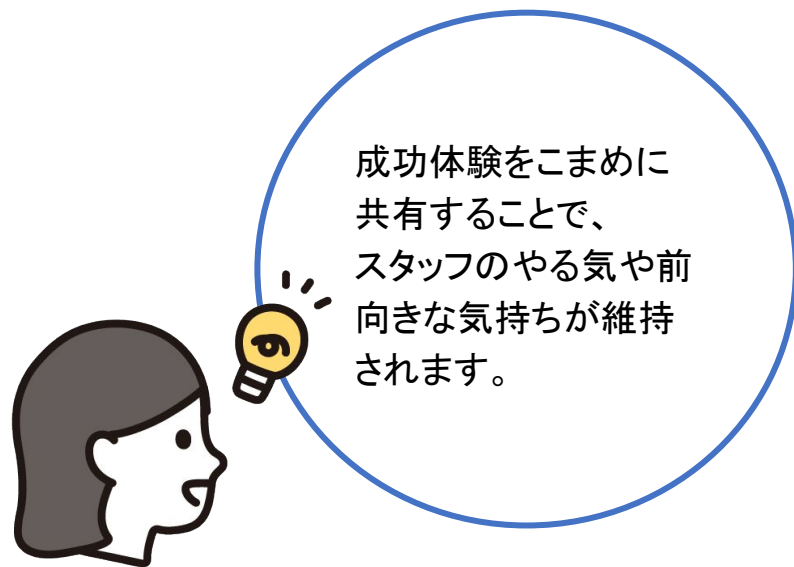
4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

①学びをリアルタイムで活かします。



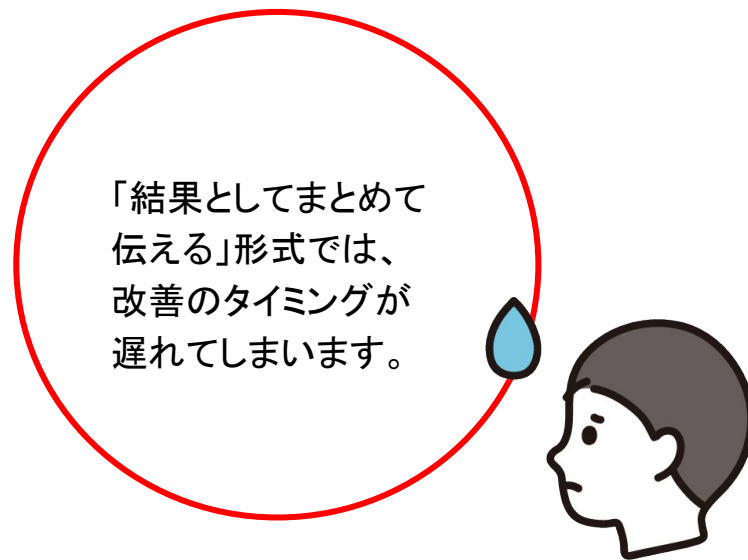
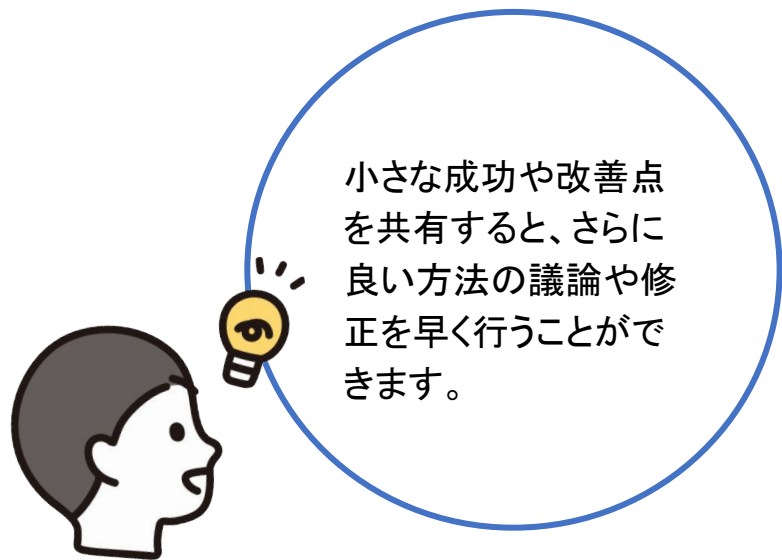
4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

② モチベーションを維持できます。



4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

③改善サイクルのスピードアップにつながります。



4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

「小さな成功もこまめに共有すること」は、単なる報告ではなく、**現場改善の速度を上げ、モチベーションを維持し、学びの文化を作るため** にとっても重要です。



4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

✨成功体験を広げるなじませの仕掛け

①「自分の仕事がラクになる」体験をしてもらいましょう。

座学で説明するより、日常業務の中で便利さを実感できる場面 を作りましょう。

夜勤や排泄介助で「ライフリズムナビがあるから介助不要の巡視が減った」「ご本人の望むタイミングでのケアができるようになった」といった変化を、実際に一緒に体験することが重要です。

業務削減や**安心感**に直結する体験があると浸透しやすいです。



4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

✨ 成功体験を広げるなじませの仕掛け

②パート職員向けに“役割限定”で浸透させましょう。

パートの方は「全部覚える」ことが負担になりやすいので、
最低限ここだけは！というポイントに絞りましょう。

「これなら私もできそう」と思えるハードルの低さが
大切です。



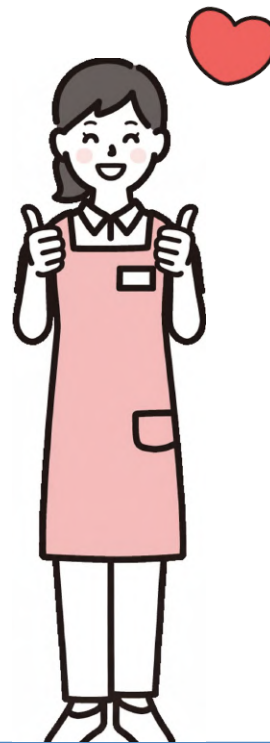
4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

✦ 成功体験を広げるなじませの仕掛け

③褒める・見える化をしましょう。

「ライフリズムナビを活用してよかった事例」を申し送りや委員会で共有し、活用できたスタッフをポジティブに取り上げましょう。

小さな承認の積み重ねが「当事者意識」を育てます。



4. 定期的に「小さな成功事例」をスタッフ間で共有している

「説明」よりもまずは
「体験」→「成功事例の共有」→「小さな役割の実践」→「承認」
という流れでなじませを進めましょう！



「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できていますか？



5. 「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できている

ライフリズムナビの定着状況や現場での課題を把握するために、**職員アンケート**の実施をおすすめしています。

アンケートを通じて、現場の声を見える化し、システム活用の振り返りや課題整理を行うことができます。

施設名●●様「ライフリズムナビ」ご利用状況アンケート		職種：介護職 リハビリ職 看護職			
No.	質問	回答			
1	ライフリズムナビは慣れましたか？	非常に慣れた	慣れた	まだ少し戸惑う	よくわからない
2	ライフリズムナビの情報を参考に、入居者の生活リズムや状態に合わせたケアを行うことができますか？	できている	時々できている	まだ慣れていない	ほとんどできていない
3	ライフリズムナビを、普段の業務でどのくらいの頻度で確認していますか？	毎シフト	週に数回	月に数回	ほとんど確認しない
4	見守りシステムの運用ルールについて、理解していますか？	完全に理解している	大部分理解している	一部理解できていない	よくわからない
5	見守りシステムの運用ルールは施設内で統一されていると思いますか？	統一されている	人によってルールが違う	わからない	---
6	見守りシステムの活用は、あなたの心身の負担の軽減に役立っていますか？	とても役立っている	一部役立っている	役立っていない	---
7	見守りシステムの活用で、あなたの業務の効率化が図れましたか？	図れた	一部図れた	図れていない	---
8	業務の効率化が図れた事例、逆に業務の負担となっている事例を教えてください (自由記述)				
9	システムの操作で困ったことなど、ご意見ご要望などお聞かせください (自由記述)				

職員アンケートの
ダウンロードはこちら



5. 「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できている

①教育・支援が的確になります。

- ・誰が使いこなせていないかを把握できれば、必要なサポートや指導をピンポイントで行えます。
- 全員に同じ内容を教えるよりも効率的で、職員の負担も減らせます。

②業務効率や安全性の向上につながります。

- ・使えている人のノウハウを共有すれば、施設全体の効率や安全性が向上します。

③トラブルや事故の未然防止につながります。

- ・誤った操作や見落としが事故につながる場合があります。
- ・使えていない人を早めに把握することで、事故やトラブルを防ぎやすくなります。

④導入効果の可視化ができます。

- ・誰が活用できているかを把握することで、導入したシステムやツールの効果を評価しやすくなります。
- ・「使えていない人」が多い場合は、研修内容や運用方法を見直す指標にもなります。

⑤モチベーションや協力体制の向上ができます。

- ・使えている人の活躍を評価したり、うまく使えていない人に寄り添った支援ができるようになります。
- ・施設全体の協力体制や前向きな雰囲気を作りやすくなります。

5. 「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できている

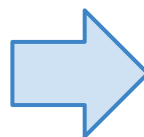


5. 「うまく使えている人」「使えていない人」を把握できている

職員アンケートで現状把握ができたなら・・・

スタッフの操作方法の理解度を確認するために、以下の定着レベル表を参考に、必要に応じたアプローチを行いましょう。

定着レベル	定義	目安
レベル0	-ライفزリズムナビを導入していることを周知している。 -各端末の操作方法を知っている。	入社前 導入前
レベル1	-スマホ・PCを使用して業務で画面を見ている -心拍数・呼吸数の見方を知っている -ユーザー権限を理解している(閲覧・管理者) -ログインIDを理解している -自施設に何の種類のセンサーが入っているか理解している	入社直後 導入初期
レベル2	-運用ルールを理解している -リアルタイムグラフを見ている -過去データを見ている -ご入居者の睡眠リズムを見ている -導入目的を理解している	入社～3か月 導入～1か月
レベル3	-ご入居者の生活リズムを理解している -ご入居者の生活リズムを掴むためのデータの見方を理解している -データをもとにご入居者の生活課題を把握することができる -アラートの機能を理解している	入社3～6か月 導入～3か月
レベル4	-生活課題への対応にライفزリズムナビデータを活用して取り組んでいる。 -システムの基本的な操作を理解し、センサーに関するトラブルシューティングができる -多職種と共同してデータを活用している	入社6～1年 導入～6か月
レベル5	-ライفزリズムナビの応用的な機能を理解し、進んで活用することができる -システムを深く理解し、他の職員に指導や支援ができています -ライفزリズムナビを使って業務の改善や効率化ができています -エコナビスタにライفزリズムナビの新しい機能や改善案を提案できている	入社1年～ 導入6か月～1年



現状の定着レベルが把握できたら、次のステップに進むための指標を設定し、施設全体の定着レベルを高めていきましょう。

【施設内の定着度の指標設定例】

- 導入後半年経過までに全職員が**レベル3**になっている。
- 導入後1年経過までに**レベル4**の職員が**30%以上**になっている。

本日のセミナーを通して、皆さまの中で「まだできていない」と感じた部分があったかもしれません。

その気づきこそが、次の一歩につながる大切なきっかけです。

ご施設だけで取り組むのが難しいと感じられる場合は、
弊社のカスタマーサポートが、
ICT委員会や定例会にスポットメンバーとして参加し、
皆さまの挑戦を伴走いたします！



6. 質疑応答



質問がある方は
お気軽にどうぞ！



本日はご清聴ありがとうございました。

開発・運営：エコナビスタ株式会社

〒261-0023

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンB棟10階

TEL:050-5526-3869